

旅行情報誌から読み解く川の人気

宮城県仙台二華高校

○佐藤 理久

宮城県仙台二華高校

青沼 ひかる

東北大学工学部 学生会員

安西 聡

宮城県仙台二華高校

白井 聡

東北大学大学院工学研究科 正会員 風間 聡

1. 目的

現在環境問題が深刻化する中で川への親水の意識が重要視されてきているが、川は海や山に比べて人気が低い。そこでその原因を探り川への親水の活性化により、川での不法投棄や水質汚染などの諸問題を解決することを目的とする。本研究では、旅行情報誌分析と仙台二華高校2学年を対象にしたアンケート調査を元に、川への親水の意識を高めるための取り組みについて考察した。

2. 調査方法

(1) 旅行情報誌“るるぶ”による分析：`15~`16年度版46冊を使用し、海・山・川の観光地の記事の取り上げ方を計16項目のカテゴリに分類しまとめた。1) 観光地カテゴリの適合度1位を3点、2位を2点、3位を1点として重みづけしたグラフを作成し、それらを海・山・川で比較した(図1)。海・山・川の観光地の記事数を地方ごとに比較した。(図2)

(2) 高校生へのアンケート：仙台二華高校2学年221名に対してアンケート調査を行った。主な調査項目は今年1年間で行った海・山・川の観光地の名称、その場所を訪れた回数、その場所で使った金額、その場所で行ったことである。旅行費用法(TCM)を用いて旅行費用を求めた。

3. 分析結果

旅行雑誌の記事数については、川に比べ海・山は観光地の記事数が多いことがわかった(川246海544山423)。主要な分析結果を図1~図3に示す。図1はるるぶの観光地カテゴリの適合度を割合ごとにまとめたものである。海・山・川において全て上位2項を景観と自然が占めているが、3, 4番目に割合の高いレジャー・施設は海・山に比べるとやや川の割合が少なくなっている。図2は旅行情報誌から地方別に海・山・川の観光地の記事数の割合を調べたもので、東日本では川、

西日本では海に関する記事が多いことがわかる。

図3は仙台二華高校2学年に対して行ったアンケート調査の結果から、訪れた観光地を観光地カテゴリの適合度の割合ごとにまとめたものである。山・川のデータを比べると旅行情報誌ではどちらも上位2項を景観と自然が占めていたのに対し、アンケートでは上位2項を山では自然とレジャー、川では景観とレジャーが占めている。また旅行情報誌に比べアンケートではイベントが高い割合を示している。

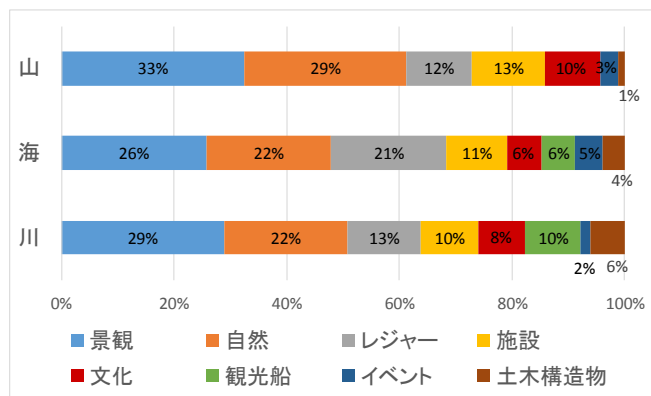


図1 観光地カテゴリの適合度の割合(るるぶ)

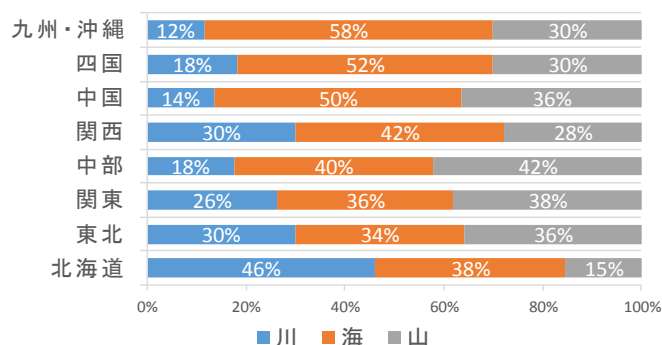


図2 地方ごとの海・山・川の観光地の記事数の割合

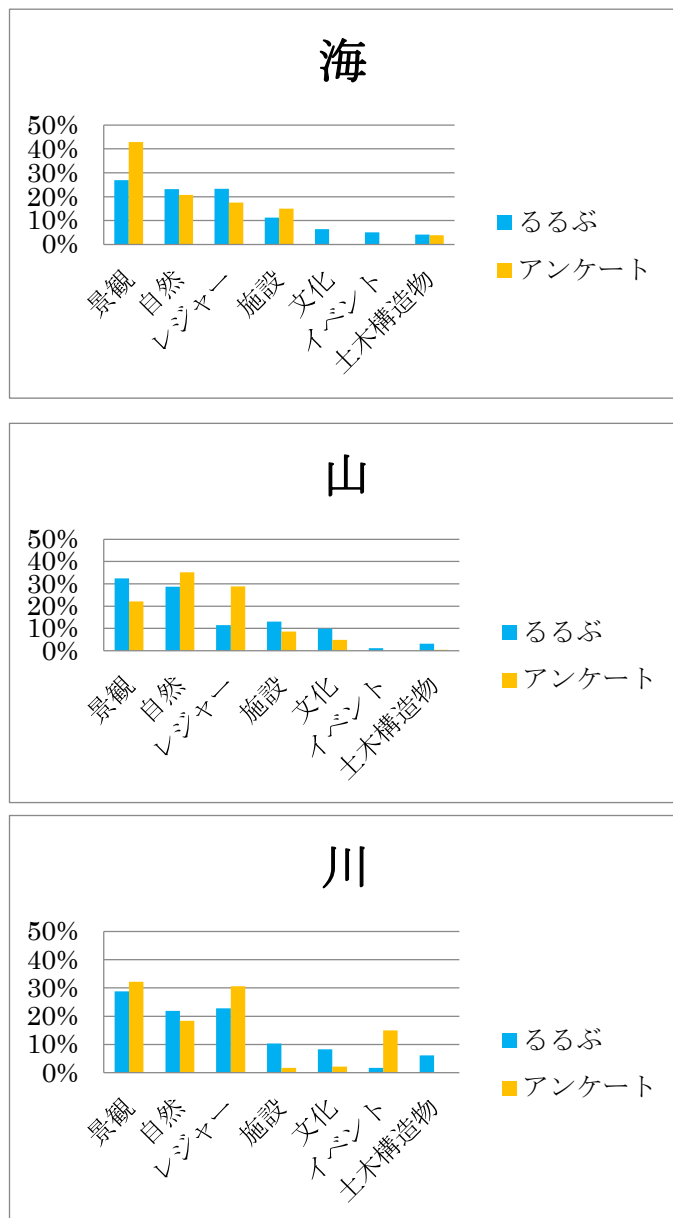


図3 観光地カテゴリの適合度の割合（アンケート）

4. 考察

分析結果より以下の3点のことがいえる。

第一に、分析結果から川に比べ海・山は観光地の記事数が多いことから海・山は川よりも人気があることが再確認された。また図1より海・山・川において全て上位2項を景観と自然が占めていることから、観光客は自然を感じ、癒しや疲労回復を目的に観光地を訪れていると考えられる。

第二に、図2より東日本では川、西日本では海に関する記事が多いことがわかった。東日本には内陸県や面積の大きい都道府県が多く、海へのアクセスが不便であるため川への需要が高まり、対して西日本では面積が小さく海に面している都道府県が多く、海へのア

クセスが比較的便利であるため海への需要が高まったと考えられる。そのため川では、海を参考に釣りやカヌーなど川でもできるレジャーを積極的に取り入れることで多量の集客を期待できると考えられる。

第三に、図3の山と川のデータを比べると旅行情報誌ではどちらも上位2項を景観と自然が占めていたのに対し、アンケートでは上位2項を山は自然とレジャー、川では景観とレジャーが占めていた。つまり山・川の適合度について、旅行情報誌では割合の低かったレジャーがアンケート結果では2番目に高かった。このことよりアンケートの対象である高校生などの若い年代の集客にはレジャーが効果的であると予想される。また山のデータでは、アンケートが旅行情報誌に比べイベントが高い割合を示していることから、地域性に関係していると考えられる。さらに、“るるぶ”は主に県外の観光客向けに編集されており、取り上げる観光地やその紹介の仕方などに県民の興味とのギャップがあるのではないかと考えられる。

5. まとめ

本研究から以下の結論を得た。

- 1) 観光客は海・山・川の観光地において、その景観や自然から得られる癒しや疲労回復を目的として訪れることが多い。
- 2) 川の人気向上のために特に若い年代の需要が高いレジャー施設を積極的に取り入れることが効果的である。

また、今後の展望としては今回のアンケート調査をもとに旅行費用やその観光地で一回あたりに使った費用の平均値や分散から傾向や因果関係を調べていく。

謝辞

本研究は本校指定のSGHプログラムの支援により実施された。また、本研究を作成するにあたり東北大学大学院工学研究科の風間聡教授をはじめとする多くの先生方から丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 旅行情報誌“るるぶ”：`15~`16年度版46冊
- 2) 末永夏子，橋本彩子，米本慶央，風間聡：河川の意識調査のための旅行情報分析